



《将来に向けた取組方針》

三菱電機グループは、「環境ビジョン2050」を策定し、多岐にわたる事業を通じて、バリューチェーン全体で、様々な環境課題の解決に立ち向かうことを宣言致しました。生物多様性保全については、次の活動を推進します。①山・川・海の保全、事業所の生物多様性保全の活動を実施し、次世代に引継ぐ地域の環境、人づくりの推進。②自然環境に影響を与えるおそれのある物質の管理、抑制、代替化及び適正処理。③従業員が、生活者として自然と調和する新しいライフスタイルに率先して取り組む社内風土の醸成。④地域の方々や行政などとの対話により、里山保全活動や事業所の生物多様性保全活動など、地域の良い環境づくりに貢献。

《具体的取組み事例》

事業所の生物多様性保全：2010年5月に「生物多様性行動指針」を制定し、24事業所で生物多様性保全活動に取り組んでいます。受配電システム製作所（香川県）は、生きものとの共生を目指した環境づくりに力を注いでいます。ビオトープ造成・緑化ルーバー設置・里山保全活動などの環境への取組が認められ、社外組織の認定を取得しました。静岡製作所（静岡県）では、事業所内の緑地を、鳥類や昆虫類が羽を休める“よりみち緑地”とする整備に取り組んでいます。

里山保全活動：2007年10月から、事業所周辺の公園や森林、河川などの身近な自然を回復する活動を全国各地で進めています（2018年度 延べ99回実施）。名古屋地区では、愛知県と企業として初めて「企業の森づくり」協定を締結し、名古屋製作所と中部支社を中心に、地元の方々や関係団体との連携を図りながら、県有林の森林整備や美化活動に取り組んでいます。

みつびしでんき野外教室：2006年10月に開始した野外教室では、参加者とリーダーとなる社員が自然を体感し、自然共生社会の実現に向けた環境マインドを醸成しています。また、累計400人以上のリーダーを育成し、35地区で活動を活性化しています。九州支社では、毎年近隣の保育園園児と社員が森林で自然観察を行っています。園児は普段触れることが無い動植物を身近に感じ、自然の大切さを学んでいます。

学んだこと・成果等：野外教室と里山保全活動に累計43000人が参加し、親として、生活者として、仕事以外でも環境のために何ができるかを考えるなどの意識が向上してきました。

今後の課題等：三菱電機グループ全体で活動を継続し、活動の広がりを従業員で共有することで、活動に参加する従業員を増やし、環境マインドを浸透させていきます。



ビオトープ



森林整備